



フードバンク関西ニュース 2014年10月17日 第30号

フードバンク関西は企業から寄贈された食品を
支援を必要とする人達を支える非営利団体に
無償で分配する活動をしています。

2014年10月17日発行
認定特定非営利活動法人
フードバンク関西
事務所 芦屋市呉川町1-15
TEL/FAX 0797-34-8330
e-mail foodbank05@yahoo.co.jp
URL <http://foodbankkansai.org/>

新年度を迎えて

フードバンク関西は、本年度、活動12年目を迎えます。平成15年4月の活動開始以来、「食べ物は命の糧、大切にしたい」の思いに、皆様からの共感を得て、フードバンク事業を継続して参りました。

現在食品提供企業は42社、受け取り団体は96か所になりました。当法人で扱う食糧を、困窮状態に陥った市民への緊急食支援に活用する食のセーフティネット事業にも取り組んでいます。



このように、事業を継続できますのも、皆様からのご支援の賜と感謝し、一層事業内容の充実を図る1年となるよう、ボランティア一同、心を合わせて努力したいと考えています。

私達は、昨年度に引き続き本年度もフードバンク事業を継続し、さらに発展させます。昨年度は、取扱食品量が減少しましたが、受取団体には月3回の食品のデリバリーが継続できています。今後は分配食品の種類を増やし、特に主食、副食の食材確保のため食品企業訪問を継続します。

今年度からの新しい取組みとして、市民の皆様の協力を得て、家庭の余剰食品を集め、フードバンクが預かって福祉団体に届ける「フードドライブ」の仕掛け作りを始めます。「フードドライブ」とは、家庭に保管されたまま忘れ去られ、賞味期限が過ぎると廃棄される食品を、賞味期限が切れる前に皆さんで持ち寄り、福祉に活用する取り組みです。

食のセーフティネット事業については、協定を交わした地域が芦屋市、尼崎市、伊丹市、西宮市、川西市と5市になり、さらに宝塚市、神戸市との話し合いも始まっています。この仕組みを徐々に拡大し、一時的に困窮し、その日の食べ物にも困る事態に陥った市民に、命をつなぐ食糧を市の支援要請を受けてお届けします。

私達が抱える最大の課題は、日々拡大する活動に必要な運営資金を、継続的、安定的に確保することです。本年度は、「フードドライブ」、「食育プログラム」等、たくさんの市民に参加していただく取り組みを始め、私達の活動を知っていただき、賛助会員を増やしていきたいと願っています。賛助会員の皆様に「フードバンク関西は今、どのような活動をしているのか、いつでも分かる」と言っていただけるように情報公開を行い、ご支援をいただきやすいNPOであり続けていきます。

ここ数年の間に、フードバンク団体が日本に次々と生まれて現在40団体を数える程になりました。しかしながら、食品をフードバンクへ寄贈する企業はまだ少数であり、事業から全く収益が上がらないので、運営団体は食糧や資金の確保が大変です。

フードバンク関西は、必要とする食糧の大半を、地域の企業や市民の皆様からの寄付で集め、運営資金も賛助会員と寄付をお寄せ下さる皆様の温かなご支援で賄い、専従職員を置かず全員がボランティアで運営しています。福祉施設や地域と良い関係を保ち、参加者が楽しみながら協力して、少しずつ事業を拡大していきます。

命の糧である食べ物を大切に、まだ食べられるのに廃棄される食品を引き取り、それらを必要とする人達に届け、「ありがとう」が飛び交うフードバンク関西の日々の活動を、ずっと継続していきたいと考えています。ご支援をよろしくお願いいたします。(浅葉)

この一年間フードバンク関西を支えて下さった皆様に感謝いたします！

		法人	個人
食品の寄贈	166トン	38 団体	244 件
正会員会費	310,000 円	2 団体	28 人
賛助会員会費	2,209,400 円	104 団体	122 人
寄付・募金	2,588,083 円	26 団体	86 件
助成金	1,514,550 円	兵庫県社会福祉協議会、 木口福祉財団、パブリックリソース財団	
ラッフル寄付	425,600 円		

(平成25年9月1日～平成26年8月31日)

第11回通常総会を開催しました



第11回通常総会が10月11日(土曜日)に芦屋市の木口記念会館会議室にて開催され、当法人の正会員の皆様と理事が出席し、平成25年度(25年9月1日~26年8月31日)の事業報告、決算報告とその監査報告、平成26年度(26年9月1日~27年8月31日)の事業計画とその予算等の議案について審議が行われ、いずれも満場一致で承認されました。なお、詳細については、本紙面に昨年度の事業および決算報告の概要を掲載しましたのでご覧ください。

平成25年度事業報告要旨 (平成25年9月1日~平成26年8月31日)

1. 事業活動の状況

フードバンク関西は、平成26年8月31日をもって第11期会計年度を終了することができました。

当法人は、食品関連企業や個人から品質には問題のない食品の寄贈を受け、要支援生活者を支える非営利福祉団体や施設に無償分配するフードバンク事業と、フードバンクで取り扱う食糧の一部を、困窮する市民への緊急支援食糧として活用する食のセーフティネット事業を展開しています。

現在、45人のボランティアが作業を分担し、月延100回に及び食品デリバリーと事務所での検品、仕分け、入出庫管理に取り組んでいます。私たちはこの活動を通して、命の糧である食べ物を廃棄すること無く大切に活かし、支援を必要とする人達の食生活を少しでも豊かにして自立への意欲を促し、市民が自らできることをして支え合う社会の実現に寄与したいと考えています。

平成25年12月27日、国税庁からの認定に重ねて、兵庫県から認定NPO法人の認定を受けました。今後5年間、当法人への寄付は、個人の場合、寄付金額の4割が税控除となり、法人の場合は、限度額内において寄付金全額を損金対象とすることができます。

(1) 余剰食品の受領と福祉団体への無償分配事業について

① 当期、フードバンク関西は新たに食品関連企業6社と確認書の交換を行いました。この1年間に24社から定期的あるいは複数回、14社から不定期に食糧の提供を受け、さらに個人の皆様からも244件の食品寄贈を受けました。今期1年間の取扱食品合計量は166トンで、昨年度と比べて22トン減りました。これは主にパン・野菜・果物の取扱量が減少したことに起因します。

② 本年度は、セカンドハーベストジャパン、セカンドハーベスト名古屋、ふーどばんく OSAKA の3団体と食品の相互提供を行い、当法人は主に飲料を中心に32トンを受領し、菓子類8トンを提供しました。

③ 3月以降、菓子類の取扱量が増加しました。他のフードバンクに提供する等、過剰分を減らす努力をしましたが、受取団体には、菓子類の提供が過剰となりました。

倉庫の活用により食品保管能力が拡大したことで、飲料類の取扱量が増え、賞味期限まで1カ月程度の食品の引き取りが増えた結果、受取団体に月1回事務所から届ける食品の量が増加しました。しかし、パン・野菜・果物類の取扱量が減少し、主食、副食の食材となる食品の確保が難しくなり、それらの食品の確保が課題です。

(2) 食のセーフティネット事業について

① 平成24年から着手した、困窮した市民を対象にした食のセーフティネット事業は、芦屋市、尼崎市、伊丹市に加えて、平成26年4月1日に西宮市、川西市の社会福祉協議会と事業協定書を交わし、仕組みの稼働地域が5市に拡大し、支援回数も飛躍的に増加しました。平成24年度(4月~3月)の支援回数97件、平成25年度(4月~3月)165件に対し、平成26年4月~8月の5ヶ月間で既に119件に達しています。

② 平成26年3月24日に、この事業を開始して2年を経過したことに伴い、「食のセーフティネット実務者による勉強会」を、芦屋市、尼崎市、川西市、伊丹市、西宮市、神戸市、兵庫県の行政と社会福祉協議会の担当者24名と当法人10名の参加を得て、芦屋市民センターで開催し、関西大学教授松原一郎先生の議事進行により、「食のセーフティネットにおける、行政とフードバンク関西の協働の形」について、今後の展望を含めて話し合いました。行政担当者からは、フードバンク関西からの食糧支援を、困窮者支援の新たな選択肢の一つとして期待する発言が多く聞かれました。当法人としては、この事業に於いて行政との協働によるメリットはあるが、公的支援が全くなく当法人からのサービスの一方的な提供に終始していることを問題点としました。

最後にまとめとして、松原先生が「食のセーフティネット事業は、食品ロス削減で企業にメリットを与え、地域の困窮者を減らすことで社会リスクの軽減になるので、行政は積極的に事業の拡大を誘導すべきだ。社会リスクの少ない安定した社会は、市民や企業にとって大きなメリット。それを実現するこの事業が長期継続できるよう、フードバンクへの支援等、行政の対応が必要だ。」と締めくくられました。今後もこのような集まりを継続していきます。

③ この事業で活用する食品は、利用者の住環境に電気・ガス・水道のインフラが整っていない可能性や、食品の安全性、事故防止の意味から防災備蓄品が有効と分かりました。

(3) 広報活動

① 本年度は、市民の皆さんに私達の活動を知っていただくために、広報活動に力を入れました。市民団体でイベント、大学の出前授業等で活動紹介を12回行いました。また、関西地域にある寺や神社約2千カ所に、活動への理解を求めるとを目的に、フードバンク関西ニュース等を発送し、賛助会員が若干増加しました。

FACEBOOK、GOODDO や、LINKSFORGGOOD 等、インターネットを介して、広範囲な市民へのアピールと支援要請をする機会を得て参加しました。効果の程はまだ実感できませんが、これらの働きかけを今後も継続していく予定です。

② 報道機関からの取材要請にも積極的に応じました。平成25年12月12日に朝日放送報道番組キャストで当法人の活動が紹介されました。翌1月6日に神戸新聞の社説で取り上げられ、3月26日に同新聞の「くらし」面で活動が紹介されました。8月12日に日本経済新聞の社会面のシリーズ「タッグ関西」で「支援つなぐ、飢えなくす、フードバンク阪神間5市と」と題して食のセーフティネット事業が取り上げられました。7月には、食品製造業界の専門月刊誌「月刊食品工場長」に当法人の活動が紹介されました。

③ 平成25年秋、第5回ラッフルキルトを開催しました。キルト作家の集まり「キルトリーダーズ兵庫」から4作品をご寄贈いただきました。その中の1作品は「キルトリーダーズ兵庫」からのプレゼントとして母子生活支援施設「ベル青谷」に寄贈されました。その他4つの国際ホテルから宿泊クーポン、食品提供企業多数から食品ギフトセットの協賛を受け、賞品が盛りだくさんのラッフルとなり、寄付総額は425,600円でした。

④ 食育プログラム制作に取り組んでいます。日頃、飽食生活の中で食への関心が低くなっている子供達に「食べ物は命の糧、大切にしよう!」というメッセージを伝えることを目的に、NPO法人C・キッズネットワークと協働で食育プログラムの作成をすることになり、兵庫県社会福祉協議会からの助成金50万円を受領しました。まず、小学1年から3年までを対象とした食育プログラム1講座60分を来年3月に完成させる予定です。

2. フードバンク関西への評価について

本年度は運営費調達困難と予測されましたが、平成24年度から開始した食のセーフティネット事業には、市民の皆さんからの理解と共感が寄せられ、ご支援によって何とかこれを乗り越えることができました。

(1) 本年度受領した助成金は3件でした。昨年9月に木口福祉財団から、広報活動への助成金24万円をいただき、前年度開催した湯浅誠さんを講演者としたフードバンクシンポジウムの諸経費を賄うことができました。また昨年度に申請した兵庫県社会福祉協議会の「NPOと行政の協働事業助成」の助成金100万円が、4月に事業経費を精算する形で入金されました。クレジットカードによるギフトワン寄付が、3月からは、パブリックリソース財団からの助成金として小額ながら毎月届き、継続する助成金の頼もしさを実感しています。

(2) 今年度は、個人の皆様からの食品の寄付が続きました。ほぼ毎日食品の詰まった段ボール箱が事務所に届きました。個人の皆様から寄せられたお米が年間で合計3トンを超えました。このようなご支援が私達ボランティアの励みになっています。

(3) 当法人は、専従職員を置かず、45人のボランティアが事業を分担して運営しています。運営費のほとんどを皆様方からの寄付で賄い、原則無償のボランティアが、各々提供できる時間と労力を使って、作業を分担し、責任を分かち合っています。専従職員を置かないことで、人件費を運営費に食い込ませず、寄付金を原則として事業費に全面的に活用できる、この事業形態を維持していきたいと考えています。

3. フードバンク関西が抱える問題点

(1) 本年度は、企業から寄贈される食品に偏りが多く、私達の主食副食として最も必要とされる食品類の量と種類が増加せず、嗜好性の高い食品が「フードバンク」に集まりやすいことが見えてきました。今後、支援を必要とする人達に最も必要な食品を調達し、適切な量を分配する必要があります。

(2) 活動を長期継続するための必須条件である運営費の安定的確保は、活動開始以来の課題です。当法人は、運営費の大半を寄付に頼っていますが、皆様の信頼と応援を受けて活動できることをボランティア一同感謝しています。現時点では、食のセーフティネット事業で協働する地域行政との間に共助関係が十分にできていません。今後、行政に一部費用の分担をお願いする必要があります。

フードバンク関西は、美味しく安全なのに廃棄されるかもしれない食品を食べ物として大切に活かし、支援を必要とする人達の食の支えとして、また、食べ物が無くて命の危険を感じる人をなくす食のセーフティネットの仕組み作りに、地道に努力を継続したいと考えます。今後とも、フードバンク関西の活動に、ご理解とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



事務所で企業や個人から寄贈された食品の管理と箱詰めを行い、量販店で野菜・果物・パンを引き取り、その足で施設へ直行するボランティアの皆さん

平成25年度会計報告要旨（平成25年9月1日～平成26年8月31日）

25年度収入		25年度支出	
会費	2,519,400円	事業費	5,946,669円
寄付・募金	3,013,683円	管理費	974,295円
助成金	1,514,550円		
雑収益	199,254円	支出合計	6,920,964円
収入合計	7,246,887円	収支差額	325,923円

「第6回ラッフルキルト」のご案内

今年も「ラッフルキルト」を開催いたします。キルトは、人々が一針一針に祈りを込めて作った小さな布切れを持ち寄って作られており、助け合いの象徴です。5年前、米国大阪総領事夫人の呼びかけによりキルトが制作され、キルト作品が特賞として当たるくじ付き寄付チケット（ラッフル）を販売し、全売上額が当法人に寄付されて以来、恒例になりました。今年も、キルト作家の井上美智子さん、キルトリーダーズ兵庫の作家の皆様をはじめ、ケンミン食品、トーラク、とよす、中島大祥堂、日仏商事、ネスレ日本、ハインツ日本等の食品提供企業、ANA クラウンプラザホテル神戸、ヒルトン大阪、インターコンチネンタルホテル大阪、ハイアットリージェンシー大阪等から提供下さった沢山の心のこもった品々が賞品となり、お楽しみが満載されています。この機会にぜひご購入ください。



- 【ラッフルチケット】 ラッフル(くじ)は6枚綴り1組千円(何組でもお申込みいただけます。)
- 【お申し込み・ご送金先】 ゆうちょ銀行の口座に、お名前、ご住所、ラッフルチケットのご購入冊数をご記入の上、ご送金下さい。ご入金確認後、直ちにラッフルチケットをお送りします。
 ゆうちょ銀行 口座記号・番号： 00940-4-221867
 加入者名： 特定非営利活動法人フードバンク関西
- 【申込期限】 平成26年11月29日(土曜日)
- 【抽選日・会場】 平成26年12月5日(金曜日) THE PLACE KOBE(神戸三宮トーアロード)
 当選番号はフードバンク関西のホームページでお知らせします。

編集後記

フードバンク関西は、本年度より食品提供先の皆様にバラエティーのある食材を提供できるようにフードドライブに取り組みます。フードドライブとは、家庭で余っている食べ物を学校や職場などに持ち寄り、それらをまとめて地域の福祉団体や施設、フードバンクなどに寄付する活動です。フードバンク発祥の地、アメリカでは1960年代から盛んに行われています。今年8月末、ニューヨークから次のようなニュースが届きました。ニューヨーク市議会議長が記者会見で「食料安全保障は基本的人権であるのに、あまりにも多くのニューヨーク市民が毎晩空腹で眠りにについている」と現状を訴え、貧困者食糧不足に対応するためにフードドライブを開始したと発表しました。市議会では保存食品を集め、それらを市内のフードバンクなどへ寄付することです。さらに、市議会は、次年度予算の内、132万ドルをフードバンク、スープキッチン(無料食堂)などのために確保することを約束しています。また、ニューヨークの大リーグもフードドライブを呼びかけています。メッツでは、試合の2時間前に選手の夫人たちがフードドライブによって食糧を集めていることが報じられています。ヤンキースでも、ヤンキースタジアムまで缶詰やパスタなどの保存可能な食べ物を持って来てくださいと呼びかけ、30ポンド以上を寄付した人にヤンキース戦のチケットをペアでプレゼントしています。日本でも、体操教室カーブスは、今年1月15日から1カ月の間に全国1300店舗で179トンもの缶詰やレトルト食品、乾麺、調味料、お米などの保存できる食品を集め、全国約560の施設・団体に届けました。(井上)

余った食べ物を預かって、必要なところに届けます

特定非営利活動法人フードバンク関西

事務所 〒659-0051 芦屋市呉川町1-15 TEL/FAX 0797-34-8330

e-mail foodbank05@yahoo.co.jp URL <http://foodbankkansai.org/>

寄付のご送金方法 郵便振替口座 00940-4-221867 口座名義 特定非営利活動法人フードバンク関西